

宮城県大崎保健所栗原支所 感染症発生動向調査情報

令和6年12月5日 発行

1. 発生動向

上段は発生患者数、下段は定点当たり

疾病	疫学週				判断基準(定点当たり)		
	45週	46週	47週	48週	警報レベル		注意報レベル
	11月4日 ~ 11月10日	11月11日 ~ 11月17日	11月18日 ~ 11月24日	11月25日 ~ 12月1日	開始基準値	収束基準値	基準値
インフルエンザ#	0.33	0.67	2.33	3.00	30	10	10
新型コロナウイルス感染症#	5.00	4.33	5.33	4.67	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	-	-	-	-	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	-	-	1.00	8	4	-
感染性胃腸炎	4.00	4.00	4.00	5.00	20	12	-
水痘	0.50	-	1.00	1.00	2	1	1
手足口病	4.00	1.00	6.00	8.00	5	2	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	2	1	-
突発性発しん	-	-	1.00	0.50	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	6	2	-
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	6	2	3
急性出血性結膜炎	定点設定なし				1	0.1	-
流行性角結膜炎	定点設定なし				8	4	-
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	定点設定なし				-	-	-
無菌性髄膜炎	定点設定なし				-	-	-
マイコプラズマ肺炎	定点設定なし				-	-	-
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	定点設定なし				-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	定点設定なし				-	-	-
マイコプラズマ肺炎(小児科)	0.50	3.50	-	-	-	-	-
川崎病	-	-	-	-	-	-	-
不明発疹症	-	-	-	-	-	-	-

栗原支所管内定点数: #は3施設。それ以外は2施設

2. 施設対応状況 (過去2週間における支所対応状況) ◎:複数対応中、○:対応施設あり、-:対応無し

施設区分	保育所	高齢者・障害者施設	医療機関
対応状況	○	-	-
備考	溶血性レンサ球菌感染症		

*「1.発生動向」の解釈について
 ・上段は圏域全体で一週間に診断した患者数
 ・下段は一つの定点(医療機関)において一週間に診断した患者数
 ・下段の定点当たりの数値を表右側の判断基準と照らし合わせて評価してください。

3. 栗原支所より

【 定点把握対象疾患 】

- インフルエンザが増加傾向です。
- 新型コロナウイルス感染症は横ばいです。
- 感染性胃腸炎は横ばいです。
- 水痘は継続しています。
- 手足口病が増加傾向です。感染対策に努めましょう。

【 集団発生情報 】
 保育所において溶血性レンサ球菌感染症の発生がありました。感染対策に努めましょう。

【 感染症コラム ~HIV予防up to date~】

- HIVの予防策は1つではなく、複数の予防策を組み合わせた「Combination Prevention」(コンビネーション予防)が世界的な標準となっています。
- 予防策の一つとして注目されているのがPrEP(Pre Exposure Prophylaxis:曝露前予防、プレップ)です。PrEPは、HIVに感染していない人が、性交渉をする前から抗HIV薬を内服し、HIV感染のリスクを減らす方法です。
- PrEPは、毎日1回1錠内服するデイリーPrEPと、性交渉の前後を挟み複数回に分けて内服するオンデマンドPrEPの2つがあります。
- PrEPの開始前、開始後には3か月毎のHIV検査と診察が必要です。また、使用する抗HIV薬の副作用やB型肝炎に感染している場合の注意の必要性から、腎機能および肝機能の検査も必要です。
- PrEPに用いられる抗HIV薬、ツルバダ配合錠が2024年8月28日に薬事法で承認されました。
- 国内外でのPrEPの利用者は増加の一途を辿っており、HIV感染のリスクが高い人たちが無理なく安全にPrEPを継続できる仕組みづくりが求められています。

(コラム提供:やまと在宅診療所栗原の土屋院長先生)

12月1日は「世界エイズデー」



感染症情報 ←



性感染症検査 ←

大崎保健所 栗原支所 疾病対策班
 ☎0228-22-2117 📠0228-22-7594
 HP:<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khhwfz/ktindex.html>